



柳沢英希 議員

市庁舎について

問 現在の庁舎の設備状況と被災した場合の庁舎の状態は。

答 消防設備は、地下駐車場の移動式 소화設備の配管ホース等の更新、エレベーターも平成20年に更新。給水設備は露出バルブを取り替えたが、電気、ガス設備と共に、今後の庁舎のあり方と共に検討していく。

庁舎の耐震値は、東西方向で最高値が0・755、最低値が0・346であり、南北方向では最高値が0・676、最低値が0・351である。Is(※)が0・6以上であれば、震度6強く震度7なら倒壊の恐れは無いと思われるが、被害想定は揺れの周波によるので、予測はできない。

問 ※「Is値」は構造耐震指標。今後の庁舎のあり方をどう考えるのか。

答 現庁舎を耐震補強、劣化改修を行っても、窓口サービスへの支障や建物の延命も含め膨大な費用(約14億)が必要。現庁舎での改修ありきの考えではなく、他の公共施設等の利活用など、財政計画の裏付けも含め、もう少し幅を広げて検討していく。

復興拠点となる市庁舎のあり方について、複数案を示して、ご意見を頂きながら平成25年度中に一定の方向性をまとめ上げていく。

問 平成25年度中に一定の方向性をまとめるとあるが、どのように進めていくのか。

答 現在は、一案として現庁舎の耐震案は既にあるが、それ以外の庁舎建て替え案や、分散の案も視野に、工期やそれにかかる金額やメリット、デメリットもまとめた上で、市民説明会や懇談会などの手法によって、平成25年の夏場から秋口までには、市民の方々のご意見も伺いながら、方向性を一つにまとめ上げていく。

現段階では、平成26年度予算にどのようにに繁栄されていくかは、分からないが、そう出来るように進めて参ります。



教育行政について



柴田耕一 議員

問 教育方針で「知・徳・体を家庭や地域と一緒にバランスよく育てることが重要」の取り組みと成果について。

答 教師力、授業力の向上、新しい学びプロジェクト、特別支援教育、外国人支援教育の充実に取り組み、学校訪問等で展開される授業内容は、教員の工夫もあり質的な向上が見られ、学力の向上については大きな成果を実感しているが、最終的な評価は来年3月に示す。

問 新しい学びプロジェクト東京大学との協同学習研究活動及び成果について。

答 昨年度から、翼小学校、南中学校を協同学習の授業研究推進校として取り組んでいるが、聞き合う学びの習慣、温かい学級集団づくり、教師の教材見方の変化等、子供たちはもちろん教師の気持ちも高めてくれる成果が出てきている。来年度研究推進校を変更して研究実践を推

進していきたい。
問 「幼・保」、「小・中」一貫教育の準備状況について。

答 「異校種間連携の強化」、「高浜カリキュラムの策定」の推進の他、12年間の学びを踏まえた子供の発達段階に応じた指導法の研究推進、行政や地域が協働して子供を育む教育環境のネットワーキング整備等の推進を進める。

都市計画道路について

問 長期末着手都市計画道路について。

答 高浜市の都市計画道路整備率は、平成23年度末で約80%。県内市町村の平均63%に比べ整備率が低いという状況ではない。今年度末完了予定の吉浜棚尾線供用開始後は、衣浦豊田道路の4車線化事業に集中する。

問 長期末着手路線の見直し等について。

答 社会経済情勢の変化に対応した総合的、効率的な道路整備、まちづくりと整合の取れた道路計画、また、東日本大震災の教訓から、防災的観点を取り入れた道路計画等、慎重に考える必要がある。